

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
105-6	中学校	社会	社会（地理的分野）	1－2年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	地理 116-72	中学社会 地理的分野		

1. 編修の基本方針

心が動く、
その先へ。

生徒たちは知らないことや説明のつかないことに会おうと何かな、なぜだろう、と心が動きます。それが学びの始まりです。その動きを受け止め、道筋を示し、その先へといざなうことが、私たちの願いです。

私たちの教科書は、生徒たちを**新しい時代を担う主権者**へと育てるために、めまぐるしく変化する混沌とした現代社会を生き抜く力をつけ、「公民としての資質・能力の基礎」を育成することをめざして編修しました。

本教科書は、教育基本法第2条の教育の目標を達成し、その基本理念を実現するために、以下の三つを基本方針として、編修にあたりました。

基本方針

1

生徒が主役の 楽しい学び

単元を貫く問いをつかみ、
主体的・対話的で深い学びへと
導きます。



基本方針

2

社会科授業を 手厚くサポート

生徒は基礎的・基本的な知識・技能が
確実に身につく、教師は指導と評価の
ポイントが一目でつかめます。



基本方針

3

よりよい社会と 豊かな人生の創造へ

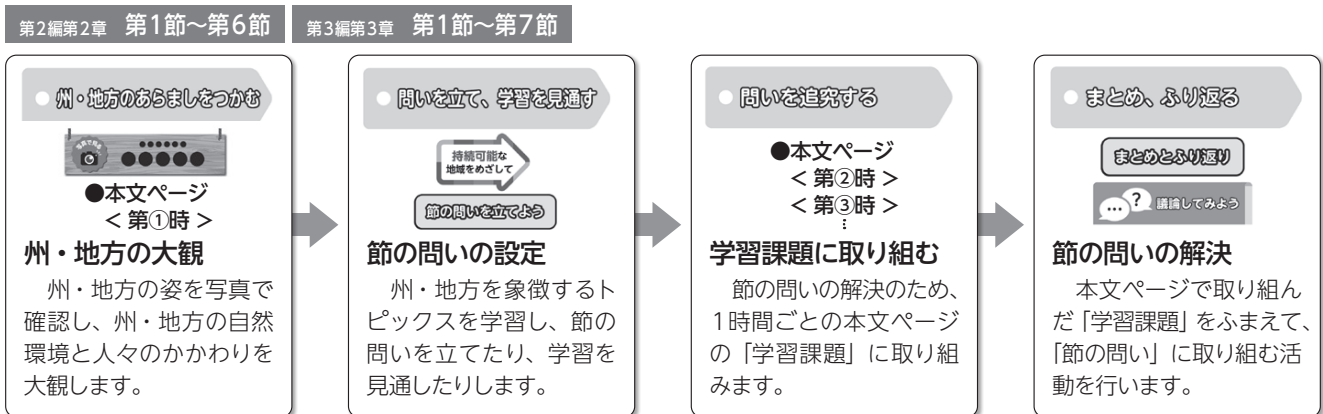
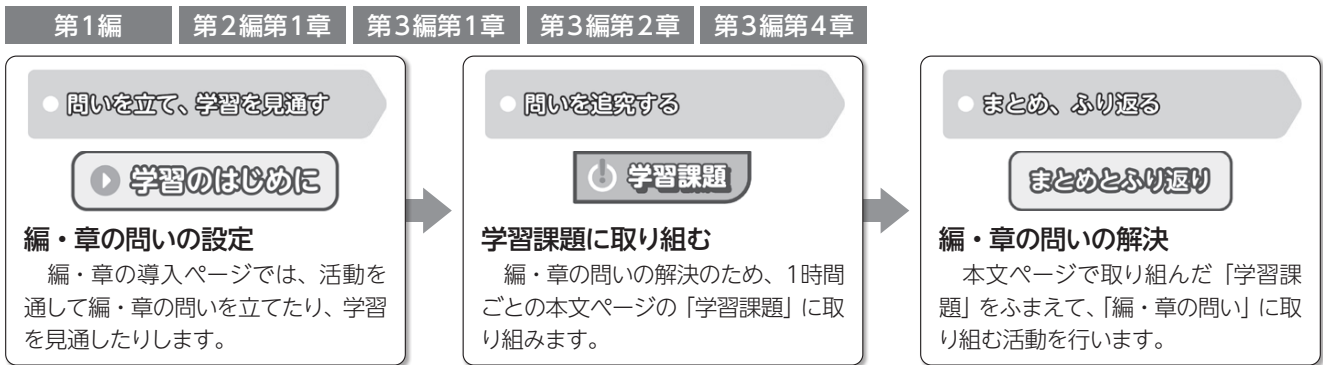
持続可能な社会を実現し、
豊かな人生を切り拓くための生きて
働く力を鍛えます。



生徒が教科書全体での学習を通して「何ができるようになるか」を見通すことのできる構成にして、学びの成果や自己の成長を振り返ることができるように編修しています。

■生徒が問いを立て、学習の見通しと振り返りができる単元構成

「どのように学ぶのか」を明確にするため、単元を貫く問いである「編・章・節の問い」を構造的に配置する構成にしています。生徒が自ら「編・章・節の問い」を立て、単元の学習の見通しをもって各時間の「学習課題」に取り組み、「まとめとふり返し」ページで「編・章・節の問い」を改めて考えるという構造にしておき、地理的分野の資質・能力の育成に向けて、指導と評価の一体化を実現します。



●編・章・節の学習では、協働的な学びに関連した箇所に「学び合い」マークを付し、問いを充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような構成となっています。

■教科書 QR コンテンツ —ICT（情報通信技術）を活用した学習—

●個別最適な学びを実現するために

各自の学習進度やペースに合わせた様々な教材を用意しています。コンテンツがある場所に、タブレットマークを設けて、「動画」「リンク」といった文字を入れて、コンテンツの種類がわかるようにしました。

●主なコンテンツ

・イントロダクションムービー ～学習を見通して授業への意欲を高める～

第2編第2章・第3編第3章の「持続可能な地域をめざして」にあり、州・地方を象徴するトピックスを掘り下げ、学習を見通すことができる動画を用意しました。問いを立てる際に活用できる内容で、主体的な学習を支援します。

・ポートフォリオ ～単元のまとめりで振り返りができる～

編・章・節の学習成果を記録するワークシートで、編・章・節の問いに対する最初の予想と、学習後に自分の考えがどう変わったかを振り返ることができます。主体的に学習に取り組む態度の評価に対応しています。

・確認小テスト ～毎時間の知識の定着のために～

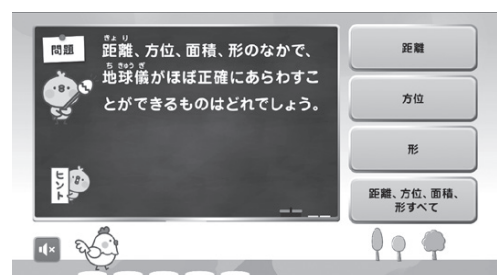
本文ページの1見開きごとの知識を整理するクイズです。

・白地図 ～知識を整理し、技能を高め、思考・判断・表現に活用できる～

学習に幅広く活用できる、世界・日本の白地図です。



↑イントロダクションムービー



↑確認小テスト

社会科授業を手厚くサポート

生徒は基礎的・基本的な知識・技能が確実に身につく、教師は指導と評価のポイントが一目でつかめます。

- **基礎・基本をおさえた本文ページは、1授業時間を見開き2ページとし、この見開きで「何を学ぶのか」を「学習課題」で明確に示し、「学習課題」と対応した「確認・表現」コーナーで、本文ページの学習を確かめるための問いを設けています。**これにより、生徒に基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、教師は、授業計画が立てやすく、毎時間の学習指導の改善に役立てることができるようにしています。
- **深い学びを実現するために、すべての本文ページで「見方・考え方」を働かせて学ぶことができる構成です。**

導入資料
本文ページの導入になる資料と、それに関係する問いかけを設けています。

学習課題
本文ページで何を学んでいくのかを示しています。この課題を考えながら、学習を進めましょう。

確認
表現
学習課題に対応し、本文ページの学習を確かめるための問いを示しています。学習の最後に取り組みましょう。

見方・考え方
学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示しています。巻頭3～4ページと同じ番号を付けています。

- 1 位置や分布
- 2 場所
- 3 人と自然とのかかわり
- 4 地域どうしのつながり
- 5 地域

歴史・公民 主に小学校の学習や歴史や公民の学習とのつながりを示します。

二次元コード **タブレットマーク**

SDGsと特に関連する箇所です。

地理
見開きの学習内容を掘り下げて、地理を楽しく学び、理解を深めていくことができるコラムです。

学び合い
話し合いなど対話的な活動を行う箇所を示しています。

よりよい社会と豊かな人生の創造へ

持続可能な社会を実現し、豊かな人生を切り拓くための生きて働く力を鍛えます。

持続可能な社会の形成に向け、社会の課題を自分ごととして捉え、解決する態度を培えるよう編修しました。

持続可能な社会と私たち

この図表は、持続可能な開発目標（SDGs）の17項目と、それに関連する社会課題や地域活動の事例をまとめたものです。SDGsのアイコンが並び、それぞれの目標が達成されることで実現される持続可能な社会の姿が描かれています。また、地域で取り組まれている様々な活動の写真を掲載し、市民が主体的に関与している様子を示しています。

▲巻頭1～2

●持続可能な社会と私たち

地理的分野の学習の冒頭に、持続可能な開発目標（SDGs）、カーボンニュートラル、Society5.0の三つの視点を提示しました。これらの視点を常に意識しながら学習を進めることで、持続可能な社会の実現に取り組む力を身につけられます。

P.206 京都市

京都市の地域課題と、それを解決するための取り組みについて詳しく解説しています。伝統文化の継承と現代社会のニーズをどう両立させるか、という課題に対して、市民や企業が力を合わせて取り組んでいる事例が紹介されています。

▲P.206 京都市

●持続可能な地域をめざして（16テーマ）

世界の州や日本の地方などを象徴するトピックスを取り上げ、そこに住む人々が、地域が抱える課題の解決のためにどのような取り組みを進めているかを学習することで、持続可能な地域づくりの実現に取り組む力を身につけられます。

P.238 多摩ニュータウン

多摩ニュータウンの発展と、そこに住む人々の生活の質の向上について解説しています。都市計画の進め方や、環境と生活の調和を図るための取り組みが詳しく紹介されています。

▲P.238 多摩ニュータウン

2. 対照表

教育基本法第2条各号に示す教育の目標を達成するために、教科書全体を通して、以下のような配慮をしています。

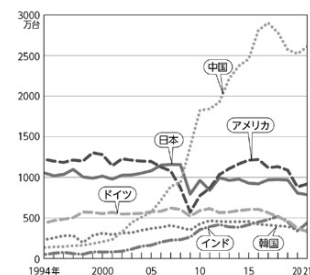
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭	<ul style="list-style-type: none"> ●「持続可能な社会と私たち」では、持続可能な開発目標（SDGs）、カーボンニュートラル、Society5.0の三つの視点から、これからの社会について教科書を通して考えるように配慮しました。（第1号～第5号） ●「地理的な見方・考え方って？」では、地理的な見方・考え方についてイラストと問いを用いながら解説し、地理学習の手立てが身につけられるよう配慮しました。（第1号、第2号） 	巻頭1～4
第1編 世界と日本の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な作業学習を行うことで、世界と日本の地域構成を楽しみながら学習することができるようになりました。（第1号、第2号、第5号） ●日本の領域についての学習を充実させ、領域保全のための様々な活動を取り上げることで、我が国を愛するとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。（第1号、第5号） 	P.2～25
第2編 世界のさまざまな地域 第1章 世界各地の人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ●世界各地の人々の生活について固定観念をもたせないよう、最新の生活の様子とその変容を取り上げるとともに、人々の生活を紹介する「声コーナー」を設け、多文化共生社会の重要性を認識できるようにしました。（第1号、第5号） 	P.26～43
第2章 世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ●人々の生活場面の写真を豊富に掲載し、多文化共生社会の重要性を認識できるようにしました。また、主体的・対話的な問いや活動を提示し、他者の考えを認め、そこから自分の考えを発展させることができるようにしました。（第1号、第2号、第3号、第5号） ●大量生産・大量消費の生活スタイル、熱帯雨林の伐採による環境破壊など、グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない地球的課題を取り上げました。（第1号～第5号） 	P.44～129
第3編 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査の手法	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な調査方法や調査の具体例の紹介を通して、地域調査の手法を身につけることができるようにしました。（第1号、第2号、第5号） ●調査の際には情報の正確性を確認することや、野外観察でマナーを守ることの大切さなどを明記しました。（第1号、第2号、第3号） 	P.130～143
第2章 日本の地域的特色と地域区分	<ul style="list-style-type: none"> ●自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信から日本の地域的特色を学習することを通して、日本を多面的・多角的に捉えられるようにしました。（第1号～第5号） 	P.144～167
第3章 日本の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ●人々の生活場面の写真を豊富に掲載し、我が国と郷土を愛する心を育むことができるようにしました。また、主体的・対話的な問いや活動を提示し、他者の考えを認め、そこから自分の考えを発展させることができるようにしました。（第1号、第2号、第3号、第5号） ●過疎化・高齢化した地域の活性化、過密化にともなうさまざまな課題など、持続可能な社会をつくっていく上で取り組まなければならない地域の課題を取り上げました。（第1号～第5号） 	P.168～281
第4章 地域の在り方	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の課題を見出し、地域社会の形成に参画しその発展に努力しようとする構想の具体例を紹介することで、社会参画への意欲を喚起するようになりました。（第3号、第5号） 	P.282～293

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 共生社会の実現に向けた配慮 ーすべての生徒にとって使いやすい紙面ー

●カラーユニバーサルデザインに配慮した教科書

特別支援教育やカラーユニバーサルデザインの観点から、グラフなどの情報を負担なく読み取ることができるように工夫しています。



▲P.98 自動車の国別生産台数

●ユニバーサルデザインフォントの使用

教科書本文には、だれにでも見やすく読みやすい「ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）」を使用しています。本文以外の箇所にも、適切なUDフォントを使用しています。

●ルビ（ふりがな）

小学校6年生以上で学習する漢字の初出箇所と、すべての重要語句に、ルビを付けました。

(2) 現代的な諸課題への対応

●カリキュラム・マネジメントへの支援

小学校、歴史や公民との学習のつながりを示した連携コーナーを設けて、生徒が小学校で学んだ事項や歴史や公民の学習に関わる事項を確認、活用できるようにしています。(本文ページ脚注)

●道徳教育と関連する教材

道徳の四つの視点のうち、Cの「主として集団や社会との関わりに関すること」のなかでも、特に「公正、公平、社会正義」「社会参画」は各所で取り扱いました。

〈例〉自立のための取り組みの優先順位をグループで話し合おう (P.89)、より良い地域の将来像を発信し、社会に参画しよう (P.292) など

●SDGsを自分ごととして考えることができる教材

学習指導要領で取り扱うこととされた持続可能な開発目標 (SDGs) に関わる現代的な課題を考えることができる教材を多数掲載しています。

〈例〉持続可能な社会と私たち (巻頭 1-2)、さまざまな地球的課題 (P.45)、再生可能エネルギーと脱炭素社会 (P.159)、林業の歴史と未来 (P.215)、復興の先をみすえてー東北地方の太平洋沿岸を例にー (P.254) など

●基本的人権に関わる教材

従来からの課題に加えて、現代における新しい課題にも目配りして、自らも関わる課題として解決に取り組むことができるように教材を多数掲載しています。

〈例〉広がるフェアトレード (P.85)、性的少数者に配慮した社会へ (P.125)、あなたの考える多文化社会って? (P.129)、アイヌの人々から学ぶ自然環境との共生 (P.278-279) など

▶P.85 フェアトレードの取り組みを行っている農場



●環境問題、資源・エネルギーに関わる教材

持続可能な社会への取り組みを視野に入れて、地域社会から国際社会の課題について、自らも関わる課題として取り組むことができるように掲載しています。

〈例〉国境をこえるエネルギーと環境問題 (P.72-73)、大量生産・大量消費の生活を維持する? しない? (P.105)、さまざまな立場の人々と熱帯雨林を守る方法を考えよう (P.117)、工業の変化と自然環境の保全 (P.182-183)、琵琶湖の環境を未来の世代へ (P.209)、十勝平野の地域循環型農業の取り組み (P.275) など

●平和・命の尊さに関わる教材

個人の尊厳の基盤となる平和に関する教材は、日本と世界の最新の事例も掲載し、自分自身に関わる切実な課題として考えることができるようにしてあります。

〈例〉国境をこえた統合のあゆみ (P.68-69)、民主的な社会の実現に向けた課題 (P.86-87)、沖縄の基地と人々の生活 (P.181)、平和記念都市・広島市 (P.195) など

●防災・減災に関わる教材

近年、多発する自然災害に対する防災・減災への備えと、自助・共助・公助の実践的な内容を、地理で学習する観点に基づいて掲載しました。

〈例〉災害にそなえるために (P.152-153)、せまりくる巨大地震にそなえて (P.154)、ハザードマップを活用しよう (P.155)、持続可能な都市づくりに向けて (P.246-247)、震災からの復興と災害に強い地域づくり (P.262-263) など



▶P.152 防災・減災のさまざまな取り組み

●伝統・文化に関わる教材

さまざまな地域の特徴ある文化について、幅広く掲載しています。

〈例〉沖縄の歴史と独自の文化 (P.180-181)、現在にいきづく歴史的都市の特色 (P.208-209)、伝統を生かした産業と世界進出 (P.212-213)、地場産業・伝統産業の新たな取り組み (P.229)、伝統文化の維持と革新 (P.258-259) など



▶P.209 日本料理(和食)の食育授業

●社会の大きな課題に関わる教材

新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻といった、社会に大きな影響を与えたできごとに関わる教材を各所に掲載しています。

〈例〉ウクライナ問題でゆらぐヨーロッパ (P.75)、交通・通信からみる新型コロナウイルス感染症 (P.164-165) など

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
105-6	中学校	社会	社会（地理的分野）	1－2年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	地理 116-72	中学社会 地理的分野		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

新しい時代を担う主権者を育てる

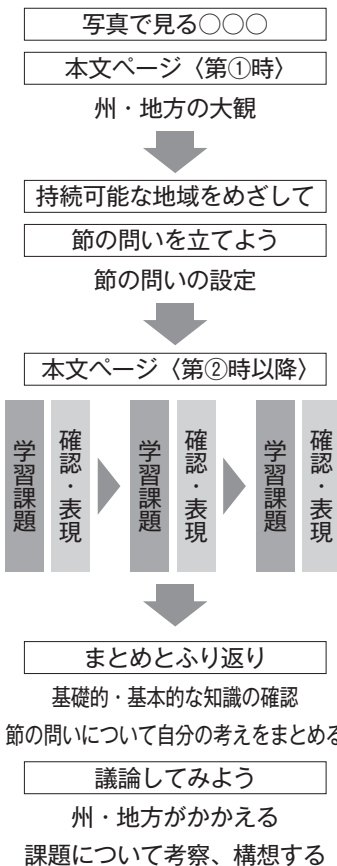
生徒の確かな成長と国際理解の深まりを願い、地理的な見方・考え方を働かせながら世界や日本を多面的・多角的に捉え、「**公民としての資質・能力の基礎**」を育成することをめざして編修しました。また、生徒が地理の学習を通して自らの成長を実感し、学習を社会に生かし、将来に希望をもって生きていくことができる内容をめざしました。

特色 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現のための工夫

①見通しをもって学習に取り組める単元構成

下図のように、教科書に構造的に「編・章・節の問い」を設定し、その問いについて自分の考えをまとめるページを設けており、生徒が何をどのように学ぶのかの見通しをもって学習に取り組めるようにしています。また、紙面上の二次元コードから弊社 Web サイトにアクセスすることで利用できる「教科書 QR コンテンツ」には、この構造的な問いに沿ったワークシート「ポートフォリオ」を用意しており、指導者にとって内容のまとまりに沿った指導と評価をしやすいように工夫しています。

第2編第2章 第1節～第6節 第3編第3章 第1節～第7節 の学習の流れ



写真で見る○○○ 本文ページ〈第①時〉

州・地方のあらましをつかむため、州・地方の姿を写真で確認し、州・地方の自然環境と人々のかかわりを大観します。

持続可能な地域をめざして 節の問いを立てよう

節の導入ページとして、州・地方を象徴するトピックスを学習し、その内容を受けて節の問いを立てたり学習を見通したりします。

また、節のキーワードや地球的課題（地域の課題）を明示し、その後の学習に取り組みやすくなるように工夫しています。

本文ページ〈第②時以降〉

1時間ごとに「学習課題」、「確認・表現」の問いに取り組みながら、州・地方の主題（考察の仕方）に基づいて地域的特色を追究します。

まとめとふり返り 議論してみよう

基礎的・基本的な知識の定着を確認するとともに、学んだことをまとめ、節の問いについて自分の考えをまとめる活動を示しています。また、節の学習内容を活用し、州・地方がかかえる課題について考察、構想する活動を行います。



◆ P.218～219 地方の大観(中部地方)



◆ P.190～191 節の問いの設定(中国・四国地方)



◆ P.116～117 まとめとふり返り(南アメリカ州)

②「社会的事象の地理的な見方・考え方」をわかりやすく解説

巻頭で、「地理的な見方・考え方」についてイラストを用いて視覚的に解説することで、これからの学習を進めていく手立てを身につけられるよう配慮しました。

地理的な見方・考え方って？

中学校社会科地理的分野の学習では、「地理的な見方・考え方」を働かせて、世界や日本のものごとを見ていきます。「地理的な見方・考え方」を意図することで、ものごとの見え方が変わってきます。「地理的な見方・考え方」は、以下の目一に理解することができます。

1 位置や分布
それはどこにあるのでしょうか？
それはどのように分布しているのでしょうか？
読み取りポイント 地名や目印になるもの

2 場所
そこはどんなところでしょうか？
読み取りポイント まわりを
見わたすとわかる自然や社会のようす

3 人と自然とのかかわり
人々の生活と自然環境は、たがいに
あたえ合っているのでしょうか？
読み取りポイント 地形・気候に合
せた人々のくふう

4 地域どうしのつながり
そこは、ほかの地域とどのような
関係をもっているのでしょうか？
読み取りポイント 人、もの、情報の流れ

5 地域
そこにはどんな特色があるのでしょうか？
そこはどのように変化しているのでしょうか？
読み取りポイント その地域ができる条件、その地域の変化

地理的な見方・考え方を働かせてみよう！

いちご産家を例に、地理的な見方・考え方を働かせる練習をしましょう。📄📄📄

五つの見方・考え方の解説です。

さまざまな地理的事象を盛り込んだイラストです。

それぞれの「見方・考え方」を動かさせて考える問いを示しています。

▲巻頭3-4

<p>●見方・考え方 1 位置や分布</p> <p>大陸や海洋の広がりやのようすがいに着目しましょう。</p> <p>▲P.4</p>	<p>●見方・考え方 2 場所</p> <p>主な宗教の分布と、その場所での人々の生活に着目しましょう。</p> <p>▲P.40</p>	<p>●見方・考え方 3 人と自然とのかかわり</p> <p>寒冷な気候や農業に適さない土壌を克服するための取り組みに着目しましょう。</p> <p>▲P.274</p>	<p>●見方・考え方 4 地域どうしのつながり</p> <p>三大都市圏との位置関係や、工業製品・部品の輸送に着目しましょう。</p> <p>▲P.224</p>	<p>●見方・考え方 5 地域</p> <p>地域の課題を解決し、地域の魅力を高めるにはどうすればよいかに着目しましょう。</p> <p>▲P.290</p>
---	---	---	---	---

また、本文ページの各見開きで、見開きタイトルや学習課題とともに、学習課題の解決に向けて手がかりになる主な「見方・考え方」の例を示しています。番号は、巻頭3～4ページのそれぞれの「見方・考え方」につけている番号と対応しています。このようにして、地理的分野の学習全体を通して「見方・考え方」を働かせることを促し、地理的事象の理解を深められるようにしました。

③協働的な学びを行うための工夫

「資料活用」や「議論してみよう」などの学習活動のうち、生徒どうしの話し合いなど対話的な活動が効果的に取り入れられるものについては「学び合い」マークを付しています。



④社会的事象について調べ、まとめる技能の育成

第3編第1章、第3編第4章で地域調査の手法や地域の在り方を考察・構想する手法、調べたり考察したりしたことをまとめ、発信する方法を示すなど、地理の学習を進めるにあたって必要な地理的技能を系統立てて習得できるように解説した「スキルUP」を各所に設けています。また、教科書QRコンテンツでも地理的技能について解説しています。

さらに、収集した情報についてまとめたり、考察したりする際に活用できる多種多様な思考ツールを随所で示しています。

▶教科書QRコンテンツ 雨温図の読み取り方

▲P.28 スキルUP

▲P.292 構想した内容を発信しよう

⑤知識を相互に関連付けて、理解を深めるための工夫

知識が社会のなかで生きて働くものとなるよう、教科書のなかで関係するページを随所で示し、相互に関連付けられるようにしています。

稲作、焼畑農業などを組み合わせて、
▶P.81

▲P.179 環境を維持する農業

特色 2 よりよい未来の創造に関わる教材の充実

①持続可能な社会について考えることができる教材

カーボンニュートラル



↑P.159 電気自動車を充電しているようす



↑巻頭1

持続可能な社会に関連する内容を随所に掲載し、教科書全体を通して持続可能な社会について考えられるように工夫しています。持続可能な開発目標（SDGs）、カーボンニュートラル、Society5.0については巻頭1-2で詳しく触れたうえで、教科書の本文やコラム等の各所で取り扱っています。



↑巻頭1-2 持続可能な社会と私たち

Society5.0




↑巻頭2 ドローンによる山間部への配達の実証実験



↑巻頭2

防災・減災

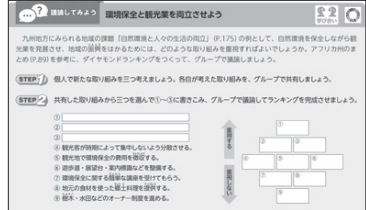
各所で災害や防災・減災について触れ、詳しく解説するとともに、ハザードマップの使い方を具体的な活動を通して身につけることができる教材を提案しました。



↑P.155 ハザードマップを活用しよう

環境問題・環境保全

世界や日本の各地でみられる環境問題や環境保全の取り組みについて紹介し、持続可能な社会づくりをふまえて、広く環境について考えることができました。



↑P.185 「議論しよう」環境保全と観光業を両立させよう

②社会参画に関わる教材

第3編第4章では、地域の在り方を考察・構想した後、地域の人々を招いた会議でその内容を発信する活動を提案しています。地域の人々の声を受けて構想の内容を改善することで、より積極的に社会に参画する態度を養えるよう工夫しています。

↑P.292 より良い地域の将来像を発信し、社会に参画しよう

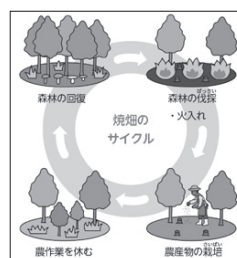
より良い地域の将来像を発信し、社会に参画しよう



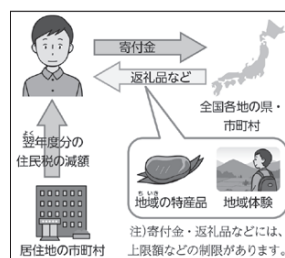
特色 3 地理を学ぶ楽しさを感じることができる教科書

①読み取りがしやすい、知識の理解と定着を図るしくみ図

教科書全体を通して、地図やグラフの読み取りやすさに配慮したほか、地理的概念などを具体的にイメージできるしくみ図を豊富に掲載しています。大判紙面を生かした、大きく多彩な図版によるわかりやすい学びで知識を定着させられるようにしました。



↑P.81 焼畑農業



↑P.199 ふるさと納税

②新しい事例や、生徒が身近に考えられる事例の掲載

新しい事例…自動運転バス (P.50)、イスラム教徒の女性の服装 (P.59)、欧州グリーン・ディール (P.66)、ロシアのウクライナ侵攻 (P.75)、垂直農法 (P.94)、電動キックスケーターの普及 (P.103)、テレワーク (P.163)、新型コロナウイルス感染症 (P.164-165) など

生徒が身近に考えられる事例…アメリカのプロスポーツ (P.101)、プロスポーツのキャンプ (P.174)、インターネットと地域活性化 (P.199)、外国で開催されるアニメーションイベント (P.243) など



◀P.59 イスラム教徒の女性の服装



◀P.163 自宅でテレワークをしている人とのリモート会議



▲P.94 垂直農法で栽培される牛の飼料



▲P.174 プロスポーツのキャンプが地域に与える影響

本教科書の特徴表

基本事項	準拠性	教育基本法の遵守	・教育基本法第2条の「教育の目標」を達成するため、同条第1項から第5項に示されるような人格の育成をめざした教科書としました。
		学習指導要領の遵守	・学習指導要領の社会科の目標、各分野の目標・内容・内容の取扱いをふまえた適切な教材を選択した単元構成としました。
	公正性		・教材の選定、記述にあたっては、一面的、断定的な見解に偏っていないか、広く受容されているかを十分に吟味、検証しました。
	正確性		・検定基準に照らして正確な内容、表記・表現であることを検証しました。また、資料についても正確でかつ最新の資料を選択しました。
内容・系統性	発達段階への配慮 (小・中・高連携)		・生徒の発達段階を考慮した内容とし、小学校の学習の振り返りや、歴史・公民の学習との分野間連携に配慮しました。
	配列・分量		・配列は、第1編「世界と日本の地域構成」、第2編「世界のさまざまな地域」、第3編「日本のさまざまな地域」で構成し、109時間の授業時数で完結できるよう各編の内容を吟味しました。 ・教科書の中心となる本文ページは、見開き2ページを1授業時間と想定し、①導入資料 → ②「学習課題」 → ③「見方・考え方」 → ④「学び合い」 → ⑤「確認・表現」を基本構造とし、この流れをくり返し学習することによって、基礎・基本の確かな定着と思考力、判断力、表現力を育成することができるように構成しました。
	主体的・対話的で深い学びの実現		・第2編第2章、第3編第3章の各節末に、その節で学習したことを生かして生徒が自分で考えたり対話したりする具体的な問いや活動を提示する「議論してみよう」を設置しました。 ・話し合いなど、対話的な活動を行う箇所に「学び合い」マークを付しました。 ・4人の生徒と2人の先生が登場し、疑問や感想、提案等の発言を通して、学習者である生徒が同じ目線で感じたり、疑問をもったりできるように工夫しました。
	社会に開かれた教育課程やカリキュラム・マネジメントの実現		・第3編第1章・第4章では、地域調査の手法や構想の具体例を示しながら、学校ごとの生徒の姿や地域の実情に合わせた学習ができるように工夫しています。 ・他教科との関連では、道徳科の教育目標に基づき、自然愛護や伝統・文化をテーマに据えた「持続可能な地域をめざして」「地理+a」などの特設ページやコーナーを設置し、内容の充実を図りました。
	重点課題	現代的・社会的課題への対応	・第3編第2章・第3章では自然災害、防災・減災 (自助・共助・公助) について詳しく学習するページを設け、生徒が日常生活の中で普段から防災対策を行うことができるようにしました。また、環境問題や環境保全、持続可能な社会づくり、伝統・文化について扱う「地理+a」を各所に設置しました。
	伝統文化の尊重と国際理解	・日本の伝統と文化を理解し、我が国や郷土を愛する心情を育むとともに、多文化共生社会に向けて、国際社会の平和と発展に寄与する態度が養えるよう配慮しました。	
	社会の持続可能な発展	・第2編第2章・第3編第3章では各地域の地球的課題及び地域の課題を扱うことで、環境・貧困・平等の問題、経済や社会の発展を調和の下に進めていくことが必要であることを理解し、追究することができるように配慮しました。	

その他	家庭学習への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・予習や復習にも使えるように、本文ページでは「学習課題」「確認・表現」を設けています。 ・教科書 QR コンテンツ「確認小テスト」は、答え合わせや誤答した問題の振り返りが生徒自身で行え、家庭での予習・復習にも活用できるようにしています。
	地域・社会への関心	<ul style="list-style-type: none"> ・「持続可能な地域をめざして」や「地理+α」などの特設ページ・コラムを設置し、地域・社会の地理的な話題について興味・関心を高められるように工夫しました。 ・第3編第1章・第4章では、地域調査の手法や構想の具体例を示しながら、生徒が身近な地域に対して地理的な興味・関心を高められるように工夫しました。
	デジタル教材の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面上の二次元コードから弊社 Web サイトにアクセスすることで利用できる「教科書 QR コンテンツ」として、第2編第2章と第3編第3章の「持続可能な地域をめざして」で州・地方を象徴するトピックスを掘り下げて学習を見通すことができる動画「イントロダクションムービー」、本文ページの1見開きごとの基礎的・基本的な知識の定着を確認できる「確認小テスト」、編・章・節の問いを構造的に記入していける「ポートフォリオ」などを用意しており、ICTを活用した授業の幅を広げ、生徒の個別最適学習に対応できるようにしています。また、学習者用デジタル教科書の発行を予定しています。
	特別支援教育・ユニバーサルデザインへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書全体を通して視認性の高いユニバーサルデザインフォントを使用し、振り仮名には判読しやすいゴシック体を使用しています。また、グラフ・地図等の図版は、色覚に特性のある生徒も読み取りが可能になるように CUD に配慮した配色や処理を施しています。
	判型	<ul style="list-style-type: none"> ・AB判を採用し、写真等の図版を大きく示して、生徒の興味・関心を高めやすくし、広くなる左右のスペースにグラフや各種資料を掲載して本文内容の補完の充実を図りました。
	印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は植物油インキを使用、本文用紙も再生紙を使用して環境に配慮しました。 ・十分な強度をもち、軽くて裏写りが少ない用紙を使用して、教科書の軽量化を図りました。 ・製本は、堅牢なあじろ綴じを採用し、開きやすくしました。

2. 学習指導要領との対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
持続可能な社会と私たち 地理的な見方・考え方って？	A～C	巻頭1～2 巻頭3～4	1
第1編 世界と日本の地域構成	A (1)	P.2～25	12
第2編 第1章 世界各地の人々の生活と環境	B (1)	P.26～43	9
第2編 第2章 世界の諸地域	B (2)	P.44～129	27
1 アジア州 —人口や経済発展をテーマに— ※「学習のはじめに」を含む	B (2)	P.44～61	(5)
2 ヨーロッパ州 —国境をこえた統合をテーマに—	B (2)	P.62～77	(5)
3 アフリカ州 —自立のための開発と国際協力をテーマに—	B (2)	P.78～89	(3)
4 北アメリカ州 —世界に影響をあたえる産業をテーマに—	B (2)	P.90～105	(5)
5 南アメリカ州 —開発と環境保全をテーマに—	B (2)	P.106～117	(3)
6 オセアニア州 —多文化社会をテーマに— ※第2編第2章の「まとめとふり返し」は、6州のうち3州で行うことを想定しています。	B (2)	P.118～129	(3) ※ (3)
第3編 第1章 地域調査の手法 —京都市伏見区を例に—	C (1)	P.130～143	6
第3編 第2章 日本の地域的特色と地域区分	C (2)	P.144～167	11
第3編 第3章 日本の諸地域	C (3)	P.168～281	38
1 九州地方 —自然環境をテーマに— ※「学習のはじめに」を含む	C (3)	P.168～185	(5)
2 中国・四国地方 —交通・通信をテーマに—	C (3)	P.186～201	(5)
3 近畿地方 —歴史的背景をテーマに—	C (3)	P.202～217	(5)
4 中部地方 —産業をテーマに—	C (3)	P.218～233	(5)
5 関東地方 —人口や都市・村落をテーマに—	C (3)	P.234～249	(5)
6 東北地方 —持続可能な社会づくりをテーマに—	C (3)	P.250～265	(5)
7 北海道地方 —自然環境をテーマに— ※第3編第3章の「まとめとふり返し」は、7地方のうち3地方で行うことを想定しています。	C (3)	P.266～281	(5) ※ (3)
第3編 第4章 地域の在り方 —宮崎市を例に—	C (4)	P.282～292	5
		合計	109

※予備時間は、学校や生徒の実態に即して弾力的に扱っていただくための時間です。

(※予備時間：6時間)